

# 黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年10月12日(水)

NO.37



## 自己肯定感

いきなりですが、通信No.35『R4全国学力状況調査結果について』で次のように書いていました。

『一番の問題は、「自分には、よいところがあると思いますか?」という質問項目に対して、「よいところはない」と感じている児童の割合が高く、いわゆる『自己肯定感』の低さが目立つ結果となったことです。』と。

ある書物によると、そもそも自己肯定感というのは、子どもがもって生まれてくるものではなく、成長過程によって育まれるものです。

最初の自己肯定感、生まれてから3、4歳までの親の子どもに対する言葉かけ、働きかけ、育て方により決定するといわれ、その後、12歳ぐらいまでに親や養育者(学校関係者)等から愛情を受け、周りからの言葉かけや働きかけによって、自分が無条件に受け入れられているという経験を積み重ねていくことで、土台が育まれるというものです。



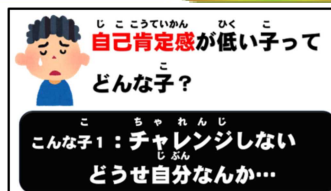
そして、その土台の上に自己肯定感がしっかりと育成され高まることによって**自信を持って生きていける**ようになること。**人との関係においても、自分を信頼できる**ので、**人も信頼でき、人からも信頼される**という**関係性を築いていける**ので、**仕事や職場、家庭でもよい影響が出てくる**ことになります。つまり、自己肯定感が高いか低いかによって、**子どもの将来が大きく変わってくる**ということになります。そういうことから考えても、子どもに関わる学校関係者としての責任は、大きいと考えています。そこで、学力テストの結果を受けて、全職員とこの課題の大きさを共有しました。

そして、昨日11日(火)、令和4年度後期始業式を迎えました。代表児童による後期のめあて発表の後、校長の話の中で、先生たちが後期がんばることとして、自己肯定感についての話をしました。

自己肯定感ってというのは、「自分のことが好き!」

「ありのままの自分にok!」ということだよと説明すると、子どもたちは隣の友だちと顔を見合わせたり笑ったり自信気にうなずいたり様々です。

「じゃあ、自己肯定感が低い子ってどんな子が紹介するから、自分はどうか考えて聞いてください。」と言って、低



**こんな子1:チャレンジしない**  
いろいろなことに積極的に挑戦しようとしません。  
「どうせ自分なんか…」という自分を否定する気持ちが出てきて、まだ何もやっていないのに、すでに頭の中では失敗したことを考えてしまいます。

**こんな子2:すぐにあきらめる**  
何かにチャレンジしても、「どうせできんし…」と、すぐにあきらめてしまうという特徴があります。

**こんな子3:自分を責める**  
「自分が悪かどやん…」と、些細なことで自分自身を責めてしまいます。

**こんな子4:大人の評価を信じない**  
先生たちや回りの大人が褒めてもなかなか喜びません。「すごいね」とほめても、「どうせうそやん!」なんて受けとって、素直に喜べないのです。

**こんな子5:自分の考えを言わない**  
自分の考えや意見を言わなくなり、否定された体験が忘れられず、自分の意見を言わなくなってしまう例は少なくありません。

そして、自己肯定感が低い場合と高い場合を、昨年度5月に見せた、「ノミの実験」とある幼稚園児が10段の跳び箱に挑戦する「奇跡の跳び箱」の動画を紹介し、「先生たちは、みんなの自己肯定感が高まるよう全力で応援していきます!」と宣言して始業式を終わりました。



式が終わり、1時間目に校内を回っている中で、後期のめあてを書いていた6年生教室をのぞいた時のことです。  
Aさんに、「おっ、後期のめあてか。しっかり考えて丁寧に書いているね。」と話しかけると、「はい!」と自信あり気に答えたのです。  
これまで、私が話しかけても、恥ずかしそうに受け答えしていたAさんの反応だったので、「おっ、えらい自信ありそうやん。」と私の方がびっくりして尋ねると、「えっ、だって、校長先生さっき(自分に自信もちなさい)」と言われたでしょう!」とのこと。

嬉しい一本を取られてしまいました。

※ 全職員で確認した、今後の具体的対応については、後日お伝えしていきたいと考えております。

